３・１１ 東京電力福島第一原発事故から９年

フクシマを忘れない 原発なくそう！

福島は今

増え続ける汚染水。ひしめく汚染水タンク群。

東日本大震災、東電福島第一原発事故から間もなく９年になります。福島県では今も４万人以上が避難生活を余儀なくされ、住民の帰還も復興も進んでいません。

難航する収束作業

倒壊が心配される排気塔の解体、解け落ちた核燃料デブリの取り出し、汚染水や汚染廃棄物の処理など困難な課題が山積しています。

増え続ける放射能汚染水

汚染水の処分方法について検討してきた国の小委員会は報告書を大筋でまとめ、海洋放出と大気放出を「現実的な選択肢」としました。

東電は現行のタンク増設計画では２０２２年夏ごろに満杯になるとしていますが、漁業関係者や市民は海洋放出に強く反対し、タンクによる長期保管のための敷地確保を求めています。脱原発をめざす首長会議も、全原発の廃炉政策への転換と、放射能汚染水を海洋放出しないよう求める声明を発表しました。

「政府追悼式は来年限り」と安倍首相

被災者支援策も次々に打ち切り

被災者の心を逆なでする打ち切り方針に伊藤達也さん（いわき市民訴訟原告団長）は、「福島原発事故の始末は世紀を超える問題です。１０年、２０年の間隔で被害がなくなるものではなく苦しみは続きます」と語っています。福島の現実は、原発が人類と共存できないことを示しています。

大きく広げよう、原発再稼働ノーの声

3月22日（日）にアオーレ長岡で予定していた「原発再稼働を考える市民のつどい」を新型コロナウイルス対応のため いったん 中止 とします。

☆☆☆